

祝日前後の市況変動

株価パフォーマンスを長期で観測すると、プラスとなる時期は祝日前後などの特定のタイミングに集中している。そこで本稿では祝日前後の株価変動という面に焦点を当てて、分析を進めたところ、祝日後の営業日は平均的にはパフォーマンスが高いものの、夏の期間について言えば火曜日以外は有意なプラスは期待しがたいことなどが明らかとなった。

(1). はじめに

1980年以降の日経平均株価は、図1に見るように、上下に大きな変動を見せたものの、平均すると年率換算3%弱の上昇となった。そして、この年率3%のリターンは、3連休前後の特定期間(3連休前の5営業日および連休明け1営業日)から生じている。逆に言えば、これ以外の期間のパフォーマンスは低迷しており、特に3連休の2週間前~1週間前までの期間や、3連休2日後から2週間後までの期間などは、下落傾向が顕著だ。このように、連休前後の株価は特定の動きをするが、3連休には土日も含めて計測しているため、月曜日や金曜日が祝日となれば3連休とカウントされる。そこで、本稿では祝日前後の株価変動という面に焦点を当てて分析を進める。本稿の分析の結果、祝日後の営業日は平均的にはパフォーマンスが高いものの、夏の期間について言えば火曜日以外は有意なプラスは期待しがたいことなどが明らかとなった。

(2). 祝日前後の株価騰落率

図2には、祝日を起点にした営業日数別に、株価騰落率を累計した。これを見ると、祝日4営業日前から祝日後5営業日後(または、祝日後1日)の株価騰落率が顕著なプラスを示している。言い換えれば、祝日前後は株価が上昇しやすい。では、祝日前後であっても株価が下落しやすい局面はないのだろうか。

図1. 日経平均株価パフォーマンスに対する3連休の影響

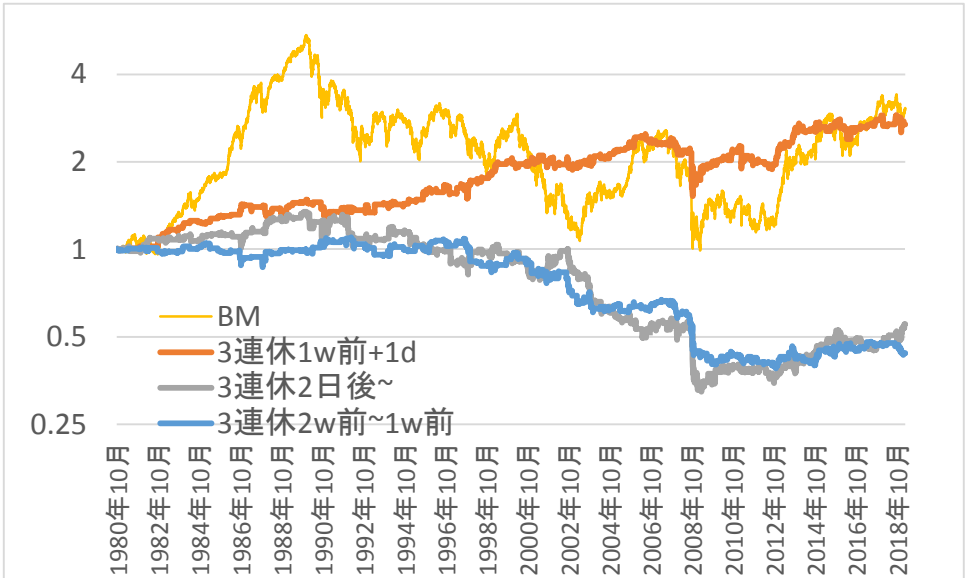
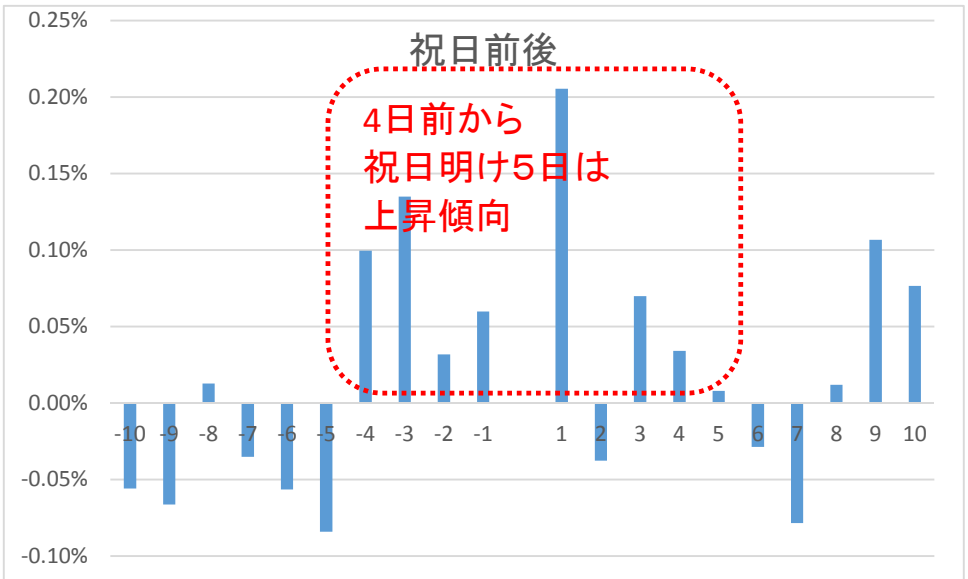
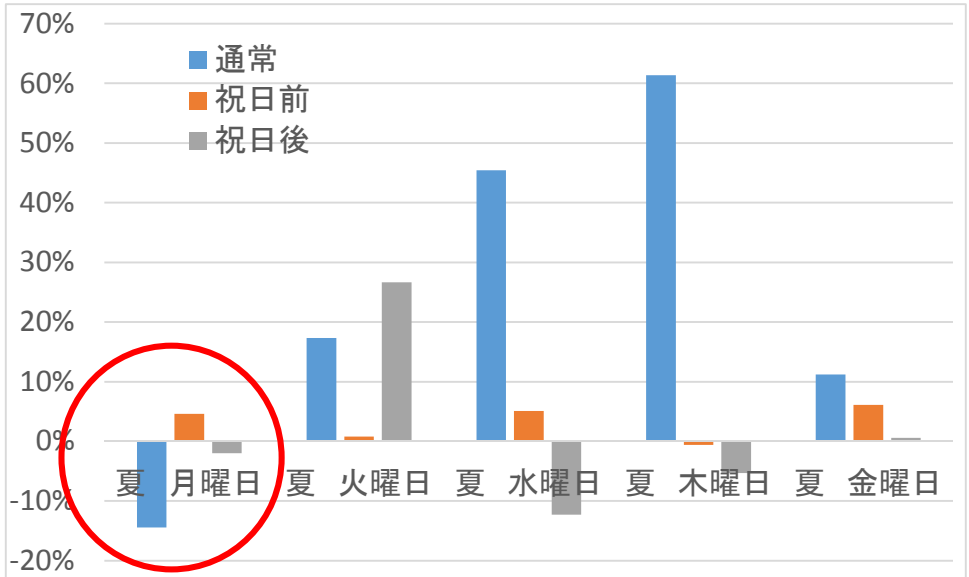


図2. 祝日前後の株価騰落率（累計）



率が顕著なプラスを示している。言い換えれば、祝日前後は株価が上昇しやすい。では、祝日前後であっても株価が下落しやすい局面はないのだろうか。図3には、祝日直前の営業日と直後の営業日の株価騰落率を曜日別に集計し、夏の期間のみを表示した。こちらを見ると、夏の月曜日において騰落率がプラスとなっているのは、祝日前のみであることが分かる。

図3. 祝日前後の株価騰落率（夏、曜日別）



間のみを表示した。こちらを見ると、夏の月曜日において騰落率がプラスとなっているのは、祝日前のみであることが分かる。また、同じデータを視点を変えた図4で見てみると、夏の期間に祝日後のリターンがプラスとなるのは、火曜日だけであることも分かる。

以上のような傾向を踏まえて、「祝日前 5 営業日・祝日後 4 営業日」を基に、週後半の「水木金」に株式ポジションを取り、「夏の祝日直後が火曜日以外の場合」にはポジションを取らないケースのパフォーマンスを図5に示した。こうした投資戦略を採ることで、年率リターンは6%程度まで改善される。

図4. 祝日前後の株価騰落率（夏、曜日別）

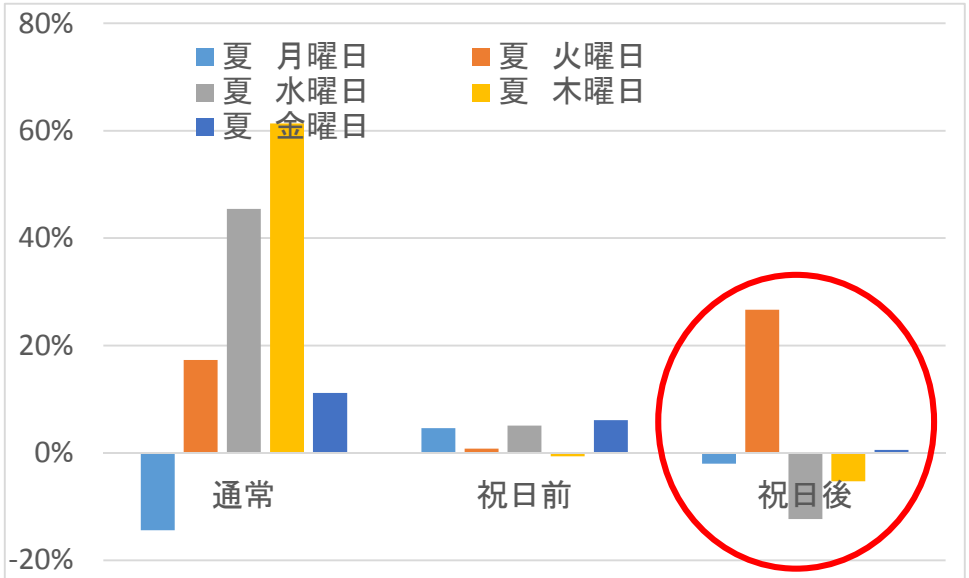


図5. 祝日前後の株価騰落率の利用

